

戦後 復興への誓い



昭和23年頃の白木本山地区での筍の出荷風景
当時は、ミカン園も戦中で荒廃しており、筍が主な収入源となっていた。(立花)



昭和23年7月1日、横山村大字上横山の一部(藤木、岩下)と下横山(轟、黒岩、仏尾、桑川内、尾久保、木浦)が分村して北川内村に合併した。

写真は、轟・黒岩で、北川内村との合併を記念してお祝いが行われたときに撮影されたもので、場所は轟区消防自動車格納庫の前で、仮装行列のようなことをして楽しんだ。(上陽)



昭和26年公開八女福島の燈籠人形屋台風景(八女)



矢部中学校の茶畑開墾(矢部)

終戦直後の八女で特筆すべきは、矢部線の開通が挙げられます。沿線に軍事施設や工場が多かったため、戦争が始まってからも建設が続けられ、昭和20(1945)年12月に羽犬塚・黒木間が開通。終戦後初めて開通した路線になりました。

戦争のため荒廃していた山や農地も再生され、茶畑などの開墾も進みました。昭和25(1950)年には電気照明による抑制栽培を行う電照菊も始まりました。この年「五条家文書」(附指定八幡大菩薩旗)が国の重要文化財に指定されました。

昭和28(1953)年には、福岡県南部の豪雨により、矢部川で未曾有の大洪水が起き、各地で橋の流出やダムが決壊、道路の寸断などが起こりました。旧八女郡の被害は、死者27名、全壊・流出家屋154戸にも及び、社会生活全般に大きな痛手を与えました。しかし、人々はすぐさま復興と新たな街づくりへ取り組み始めました。



矢部村大運動会
戦後初めて行われた運動会は仮装行列を交えて大いに盛り上がった。(矢部)



花宗堰大瀑布
矢部川で未曾有の大洪水が起きる。福岡県南部に大豪雨、矢部川は大氾濫し、ほとんどの橋は流失し家屋倒壊・水田灌水・道路決壊・交通途絶等甚大な被害となった。(八女)

昭和28年の大洪水と、鉾津ダムの決壊
昭和28年6月26日、旧八女郡下2町26カ村で、死者27人、全壊家屋(流失を含む)154戸、橋梁流失、道路・堤防等の決壊、家屋浸水、農作物の罹災など、社会生活の全般にわたって、未曾有の被害をもたらす大洪水が発生した。星野村でも被害は甚大で、千々谷鉾津ダムが決壊し、死者14人を出す。(星野)

